



「地球温暖化」 その3



今回は、「熱中症」のお話です。

温暖化の影響で年々平均気温が上がり、連日のように熱中症の発症、救急搬送などのニュースが流れています。令和6年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員の累計は97,578人で、調査が始まった平成20年以降で最も多い搬送人員となっています。

高温リスクが増加するなかで、誰もが熱中症になる危険性があり、油断は大敵です。熱中症を正しく理解し、予防と対策をしっかりと行いましょう。



【私たちにできること】

- 適切なエアコンの利用
- のどが渇く前にこまめに水分・塩分を補給
- 高齢者、子供への声掛け
- 通気性の良い服装を選ぶ
- 直射日光を避ける
- 暑い時間帯を避けて行動する

関連 URL 環境省「エコジ」

www.env.go.jp

厚生労働省「自分でできる」

www.mhlw.go.jp

総務省消防庁「令和6年（5月～9月）の熱中症による救急搬送状況」

https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/items/r6/heatstroke_nenpou_r6.pdf

認知症地域支援推進員のつぶやき No.83 家族の絆

ある施設に入所している認知症のAさんは、施設内を自由に歩き回り、とても流暢にお話ししたりと笑顔が多く穏やかな方でした。しかし会話の理解が難しく、家族のことも「どちら様ですか？」と話しかけます。その様子を見て面会に来た娘様は、寂しい思いをしていました。

そこで娘様が見ている前で、Aさんと話をしました。Aさんの母親について繰り返し話します。その後、Aさんに母親の名前を尋ねてみると、名前を答えることができました。また、娘様の結婚式の集合写真を見てもらうと、Aさんはじっと見た後に家族だけ指を差し示していました。その姿を見た家族は「家族を分かっている」と涙を流し嬉しそうにAさんを見つめ「今まで面会に来て母に分かってもらえないので来る意味がないと思い寂しかったのですが、これからは頻繁に面会に来たいです。」という言葉を送りました。

認知症の症状は人それぞれ違います。しかしどんな症状でも、一番戸惑い困っているのは認知症の人です。そのため、傍にいた人が優しく笑顔で接することが本人にとって何よりの安心に繋がり、穏やかになれることなのです。

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

- 利根町地域包括支援センター ☎68-2211
- 利根町保健福祉センター ☎68-8291
- 複合福祉施設 響 ☎61-8500
- 介護老人保健施設もえぎ野 ☎84-6081

地域おこし協力隊通信



田井隊員

おかげさまで5月24日に「第6回走りの教室」を開催することができました。ご協力・ご参加ありがとうございました！合計15名の小学生が学年問わず、風の公園に集まりました。新たに参加した子どもたちの元気な姿や、ずっと通ってくれている子どもたちの成長している姿に心動かされました！今後も引き続きパワーアップした走りの教室を、毎月開催していきたいと思っております！（詳細はリーバーや小学校の掲示をご確認ください）また中学生の学校部活動地域移行化「すばかとね」では、今年度から陸上競技クラブを新規立ち上げしました。スポーツ少年団や走りの教室に参加してくれた子どもたちが、中学生以降も利根町にて陸上競技を楽しむ機会が作れたら幸いです。今後も走りの教室やスポーツ関連事業、教育分野などを通じて利根町へ貢献していきたいと思っております。引き続きのご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

「走る協力隊」稲垣鉄平です。4月20日に土浦市で開催された「かすみがうらマラソン」に出場してきました。結果は2時間52分45秒で自己ベストを10分ほど更新しました。練習不足で終盤はすごくキツかったですが、それも含めて楽しく走ることができました。次にチャレンジする時には万全の体調で臨めるように継続的にトレーニングしていきたいと思っています。同時に定期開催中の「朝ランイベント」や7月から始まる「TONE 駅伝プロジェクト」とランニングで町を盛り上げていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。



稲垣隊員

こんにちは！空き家担当の藤田です。空き家でも、特に農家空き家の利活用に取り組んでいますが、最近、私自身、田植えを経験しました。5反弱の作付けで、とても小規模ながらこれが米農家デビューとなります。

田植えの知識が乏しく、実際にやってみるとイメージするよりずっと工程が多くて、分からないことばかり。準備に時間を要しました。田植え当日は、家族や友人、町内の方をお招きして、まず小さな田んぼを皆でわいわい楽しく手植えし、残り2つの田んぼを、ご近所の農家さんの協力で機械植えしました。田植えを通して、移住から間もないにも関わらず、農家さんをはじめ、町内の大勢の方に力を貸して頂けたことに、正直驚いております。移住者が一から米を生業にするのは難しいものの、身近に知識豊富な先輩農家さんがたくさんいる利根町に、就農希望の移住者さんがもっと来てくれたらいいなと思います。



藤田隊員

空き家コーディネーターの「ドゥーさん」こと安藤です。

前回、空き家コーディネーターの活動として、空き家利活用PJをご紹介しましたが、他にも地域活性の一環として町の認知度UP・PR活動も行っています。4月20日に隣町の河内町で開催されたイベントに利根町観光協会イメージキャラクター「とねりん」と一緒に参加しました。今までイベントやPR活動などに携わったことがなかったため、とても良い経験をさせていただきました。空き家問題と町外からの移住は、互いに影響し合う関係にあります。過疎化が進む地域では空き家が増加する一方で、若い世代の地方移住に関する関心も増えています。今後も空き家利活用の活動を行い、情報発信をしながら町の認知度UP・PR活動を積極的に行いたいと思います。



安藤隊員